【平成23年度と平成24年度の比較】

貸借対照表	23年度(A)	24年度(B)	前年比(B)−(A)
資産合計	1302.9億円	1292.7億円	↓▲10.2億円
負債合計	230.3億円	218.2億円	↓▲12.1億円
純資産合計	1072.6億円	1074.5億円	↑ 1.9億円
行政コスト計算書	**23年度(A)**	**24年度(B)**	**前年比(B)−(A)**
経常費用	184.8億円	184.7億円	↓ ▲0.1億円
経常収益	19.7億円	19.7億円	0円
純行政コスト	165.1億円	165.0億円	↓ ▲0.1億円
純資産変動計算書	**23年度(A)**	**24年度(B)**	**前年比(B)−(A)**
純資産の増加	194.1億円	199.7億円	↑ 5.6億円
純資産の減少	201.3億円	197.8億円	↓ ▲3.5億円
当期変動額	▲7.2億円	1.9億円	↑ 9.1億円
資金収支計算書	**23年度(A)**	**24年度(B)**	**前年比(B)−(A)**
経常的収支	17.2億円	19.8億円	↓ ▲0.4億円
資本的収支	▲8.4億円	▲8.3億円	↓ ▲7.1億円
財務的収支	▲10.5億円	▲10.6億円	↑ 0.1億円
当期収支額	▲1.7億円	▲0.9億円	↑ 0.8億円

貸借対照表からわかること

市の所有する建物や道路、下水道などの経年劣化により資産が減りましたが、それ以上に借金の返済を多くし、負債が減ったために純資産は増加しました。

行政コスト計算書からわかること

昨年度と比べ、市民の皆さんに提供した行政サービスの総額がわずかながら減少しました。

純資産変動計算書からわかること

今回退職給付引当金の計上見直しにより、当期純資産変動額は増加しました。そのため公共施設の経年劣化などによる資産の減少などより、資産の増加が上回ったため、将来世代への蓄えは増加しました。

資金収支計算書からわかること

経常的収支、資本的収支を合計した基礎的財政収支（プライマリーバランス）は、昨年度に引き続き黒字を維持しています。財務的収支についても、昨年度同様、返済額が借入額を上回っているため、マイナスとなりました。

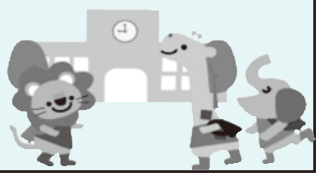
財務書類からわかる高浜市の現状

【純資産が増加しました】

純資産比率については80%を超えており、本市の財政状況は良好であるといえます。純資産は減価償却による減少より、借金の返済による負債の減少が上回ったため、純資産は増加しました。また、当期変動額として1億9千万円のプラスとなっており、一般企業でいう「黒字」が発生している状態ですが、退職給付引当金の見直しによる一時的なものであるため今まで以上に行政運営の効率化に向け、取り組んでいく必要があります。

【資産の更新準備が必要です】

小・中学校などの事業資産や道路・下水道といったインフラ資産の経年劣化により、資産総額が減少しています。インフラ資産の1年間の経年劣化分のみでも、5億5千万円の資産が減少しています。公共施設のあり方計画に基づき、更新費用を含めた将来の資産更新に向けた対策の実施が必要となっています。



【連結行政コスト計算書】

現役世代にどれだけの行政サービスを提供したのかを表しています。

民間企業における「損益計算書」にあたります。

経常費用(A)	**184.7億円**
①人にかかるコスト…… 28.0億円 （職員給料など）	
②物にかかるコスト…… 19.5億円 （消耗品、減価償却費など）	
③経費・業務関連コスト…… 29.8億円 （業務委託、利息の支払など）	
④保険給付・補助など…… 107.4億円 （介護・国保給付費・市民などへの補助金）	
経常収益(B)	**19.7億円**
使用料・手数料など…… 19.7億円 （行政サービスの利用者が負担する手数料など）	
純行政コスト(B)−(A)	**165.0億円**

問合せ先　財務グループ　☎52−1111（内線306）